

High School Human Rights

(高校人権教育通信 第27号) 平成31年(2019年)1月30日

発行 長野県教育委員会事務局 心の支援課

発行人 小松 容 (心の支援課長)

MAIL kokoro@pref.nagano.lg.jp

新たな人権侵害を生まないために

多様化・複雑化が進行する現代社会においては、「これは人権侵害ではないか？」と不当性を感じる状況が突如として起こる危険性があります。そのような状況をできるだけ回避するため、また万が一そのような状況に遭遇してしまった際できるだけ迅速かつ適切な解決につなげるために、私たちは普段当たり前だと思いがちな自他の人権を強く意識するとともに、無関心になりがちな具体的な人権課題にも関心を寄せ、深く理解する必要があります。

現代社会が抱える危険性

自他の人権をあまり意識せず、慢性的に日常生活を送ってしまう



予期せぬ場面で「人権侵害」が発生

いじめ…
など

歴史的事象…など

疎遠で過去の問題のように感じがち
人権課題に対し、無関心のままだ



課題の解決に至らない上、
新たな人権侵害が発生



人権教育の2つの手法

人権一般の
普遍的な視点からのアプローチ

日常生活や授業の中で人権を尊重する

両面があいまって
理解が深まっていく



具体的な人権課題に即した
個別的視点からのアプローチ

「個別的な人権課題」に取り組む

「個別的な人権課題」とは

- ①女性 ②子ども ③高齢者 ④障害者 ⑤同和問題 ⑥アイヌの人々 ⑦外国人
- ⑧HIV感染者・ハンセン病元患者等 ⑨刑を終えて出所した人 ⑩犯罪被害者等
- ⑪インターネットによる人権侵害 ⑫北朝鮮当局による拉致問題等 ⑬その他

「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」の「実践編 個別的な人権課題に対する取組」(平成20年3月 文部科学省が公表)には、国として取り組む個別的な人権課題がこのように示されています。

※「人権教育・啓発に関する基本計画」(平成23年4月 閣議決定)により一部変更され、「その他」の一つであった「北朝鮮当局による拉致問題等」が⑫に独立しました。

これらの人権課題に対しては、学校教育において、子どもの発達段階等に配慮しつつ、時機を捉えて、効果的に学習を進めていくことが望ましいとされています。高校においては、小・中学校では扱いにくい課題についてぜひ積極的に学習してみたいものです。

いま ここから 自分から ～地域教材を生かして～

高校における人権教育に関わって、このように思ったことはありませんか。



①高校では平和学習と人権学習を絡めて行うことが多いが、うまく関連付けることが難しい。

具体的にどんな人権課題を扱うのか、人権教育の視点から生徒にどんな力をつけたいのか、**ねらいを明確にして平和学習を行うこと**で、関連性を実感することができます。



②教科の中で「個別的な人権課題」を扱うことがあるが、十分な時間をかけて学習する余裕はない。

計画的に時間をとり、「個別的な人権課題」に取り組みましょう。特別活動や総合的な学習の時間でも積極的に扱うことで、主体的・対話的で深い学びの実現につなげることができます。

身近な社会で新たな人権問題を生まないためにも、間遠だと敬遠しがちな人権課題に関心を寄せることが大切です。「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」でも、身近な事柄を取り上げたり、生徒の興味・関心をいかしたりするといった教材の内容面での創意工夫を勧めています。また、効果的な教材例として「地域の教材化」「歴史的事象の教材化」などをあげています。

生徒が自他の人権を守るための実践的行動がとれるような学びを、いま、ここから、自分から、進めましょう。活用できそうな地域教材は、身近なところにたくさんあります。以下にその一例を紹介します。

女性や外国人の問題として

■「大陸の花嫁」(長野県桔梗ヶ原女子拓務訓練所)■

「満蒙開拓平和記念館」(下伊那郡阿智村)の開館からまもなく5年となりますが、県内には、下伊那をはじめとして、様々なところに満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍に関する史跡があります。

1930年代から始まった満州移民の中には、満蒙開拓義勇軍や独身開拓者の「開拓花嫁」として満州に渡った女性もいました。1934年9月第一次武装移民の花嫁1号が送られてから、開拓地への花嫁は毎年送られました。

拓務省はそのための女子拓務訓練所設置を計画し、長野県では全国に先駆けて東筑摩郡広丘村(現在の塩尻市広丘)に「長野県桔梗ヶ原女子拓務訓練所」が設置されました。1940年7月のことです。ここでは全国各地から20歳前後の女性が長期1年、短期1か月共同生活をして訓練を受けました。訓練所は終戦まで存続しましたが、1940年から1944年までの4年間だけでも入所者は360人に上り、下伊那郡からが最も多く93人、次に東筑摩郡が多く43人が入所しました。長野県桔梗ヶ原女子拓務訓練所を出て開拓花嫁として渡った人たちの多くは、終戦後の逃避行で犠牲者、残留婦人となったのです。



《参考文献》 満州移民 飯田下伊那からのメッセージ 飯田市歴史研究所(編)現代資料出版

(長野県桔梗ヶ原女子拓務訓練所跡)

【参考】このほか、地域素材を生かすための指導者用資料として、以下をご活用ください。

長野県教育委員会>学校教育>人権教育>社会人権教育>指導者用資料>人権教育リーフレット>いま ここから 自分から